

増田幸子

救急救命科医師 平成15年 長崎大学卒

後期臨床研修を終えて

平成18年から4月から2年間、長崎医療センター救命救急センター後期臨床研修医として勤務しました。

私の世代はスーパーローテート義務化前であり、もともと産婦人科医として入局し勤務していましたが、以前からずっと興味があった救急医療を少しのぞいてみたいと思い長崎医療センターの救命救急センターで研修医後半の3か月研修しました。その時に輸液の組み方から急変対応からまったくできず右も左もわからないまま3か月が経過してしまい、こんなになにもわからないまま終わりたくない、救急について勉強して急変に対応できる医師になりたい、と強く思ったのが救急を勉強しようと思ったきっかけでした。

平成18年は私の他に同期として日宇宏之先生、酒井健先生がいました。最初の数か月間はわからない事だらけで診療を組み立てることもできず、手技もなかなかうまくいかず何回も悩み、患者さんの状態が悪いといっちはよく落ち込んでいました。でもその度に高山先生、中道先生、藤原先生、(2年目からは山下先生も)に温かく励まされ、また、何よりも同期に元気づけられました。また、症例を一緒に担当する事になった脳神経外科の先生や内科、外科の先生方からは、各科の経験も含めた豊富な知識をベッドサイドで、あるいは飲みに来て行っていただきながらたくさん教えていただきました。スーパーローテートの経験が豊富なためだと思いますが、他科の若手へのアドバイスの仕方もとても的確で、アドバイスを受けるたびに大変勉強になりました。

合計2年間レジデントとして勤務した後、他の病院の救急対応の仕方を勉強し、自分の中での治療手段の選択肢をもっと増やしたいと思うようになり、平成20年4月から千葉県日本医科大学千葉北総病院へ研修に行きました。合計3年間勤務しましたが、長崎で救急の基礎をしっかりと教えられていたので千葉ではその病院独自の+αのいろいろなスキルを学ぶことができました。

平成23年4月から、救命救急センタースタッフとして戻ってきました。知識、技術、経験ともまだまだ未熟ですが、レジデントだった私に根気よく教えて下さった救急スタッフの先生方、他科の先生方に恩返しができるよう、今度は研修医の先生方に教えることができるよう、これからも知識と技術の研鑽に励みたいと思います。